

島人ぬ宝

本調子

工 中六工 中六工 尺中四 合 中 中尺工 合

ぼくがうまれた この

七 五七工 四 七 五 工 中 上中工中上 合

しまのそらを ぼくはどれくらい しまのそらを しまのそらを

中 中尺工 合 七 五七工 四 七 五 工 中

かがやくほしも ながれる くも なま えをきかれて

上中上 四 合 上 上 中 合 五 工 工 合

わか らない でも だれより だれよりもしっている か

上 上 中 中 尺 尺 尺 五 工 合 工 合

なしいときもうれしいときもなんどもみあげていたこのそらを イヤササ

工 六 工 六 工 六 七 中 工 六 工 六

きようかしよにかいてあることだけじゃわからな いたいせつな ものがきつと

五 七 五 七 工 五 工 上 合 上 合 四 合

ここにゑるはずき それがしまん ちゆぬた から

四 合 工 中六工 中六工 尺中四 合 中 中尺

ぼくがうまれ

工 合 七 五七工 四 七 五 工 中 上中工中

た このしまのうみを ぼくは どれくらいしつてるんだろ

上 合 中 中尺工 合 七 五七工 四 七 五

う よごれてくサンゴも へっていくさかなも どうしたら

工 中 上中上 四 合 上 上 中 合 五 工

いい のか わか らない でも だれより だれよりもしつて

工 合 上 上 中 中 尺 尺 尺 五 工 合

いる すなまみれて波にゆられて少しづつ変つてゆくこのうみを

島人ぬ宝

本調子

2/3

工	合	工	六	工	六	工	六	七	中	工	六
テレビで はうつせな いらジオで もながせな いたいせつ な											

工	六	五	七	五	七	工	五	工	上	合	上	合
ものがきつとここにあるはずさ												
それがしまん ちゆぬた か												

四	合	四	合	工	中	六	工	中	六	尺	中	四	合
ら													

中	中	尺	工	合	七	五	七	工	四	七	五	工	中
ぼくがうまれた このしまのうた を													
ぼく はど れく らい													

上	中	工	中	上	合	中	中	尺	工	合	七	五	七	工	四
しつてるんだろう トウバーラーマも デンサーぶし も															

七	五	工	中	上	中	上	四	合	上	上	中	合
こと ばの いみ さえ わか らない でも だれより だれ												

五	工	工	合	上	上	中	中	尺	尺	尺	尺	五
よりもしつている 祝いの夜もまつりの朝もどこからかきこえてくるこの歌												

工	合	工	合	工	六	工	六	工	六	七	中
を イヤササ いつのひ かこのしま をはなれてくその ひまで											

工	六	工	六	五	七	五	七	工	五	工	上	合
たいせつ なものをもつと深くしつていた いそれがしまんちゆぬ												

上	合	四	合	四	合	工	中	六	工	中	六	工	尺	中
た から イヤササ														

四	合	工	中	六	工	中	六	工	尺	中	四	合
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

一、僕が生まれたこの島の空を
僕はどれくらい知ってるんだろう
輝く星も流れる雲も
名前を聞かれてもわからない
でも誰より誰よりも知っている
悲しい時も嬉しい時も
何度も見上げていたこの空を
教科書に書いてある事だけじゃわか
らない
大切な物がきつとここにあるはずさ
それが島人ぬ宝

二、僕が生まれたこの島の海を
僕はどれくらい知ってるんだろう
汚れてくサンゴも減って行く魚も
どうしたらいいのかわからない
でも誰より誰よりも知っている
砂にまみれて波にゆられて
少しづつ変わってゆくこの海を
テレビでは映せないラジオでも流せ
ない
大切な物がきつとここにあるはずさ
それが島人ぬ宝

三、僕が生まれたこの島の唄を
僕はどれくらい知ってるんだろう
トウバラーマもデンサー節も
言葉の意味さえわからない
でも誰より誰よりも知っている
祝いの夜も祭りの朝も
何処からか聞こえてくるこの唄を
いつの日かこの島を離れてくその日
まで
大切な物をもっと深く知っていたい
それが島人ぬ宝